

科目名	インタープロフェッショナルワーク特講
科目責任者	川上 昌子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 春
科目の位置付	(1) 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。 (3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。 (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
科目概要	保健医療福祉の連携・協働はチーム医療やチームアプローチを行う上で必須になっている。本科目では、欧米圏を中心に発展してきた専門職連携・協働（Inter Professional Work）の歴史や理論を学び、我が国における実践と今後について学ぶ。
到達目標	1. IPW の理論と意義を理解する。 2. 欧米圏での歴史と発展、理論 3. 我が国での歴史と発展 4. 連携・協働を妨げる問題解決法 5. 我が国における連携・協働の実践と課題
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第 1-2 回：IPW の意義 我が国における IPW の推進 (特に近年のチーム医療推進の観点から) 川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子 第 3-5 回：IPW・IPE の概念整理、我が国の発祥、発展 川村佐知子、大嶋伸雄 第 6-8 回：IPW(E) の世界における発祥、発展 IPW(E) の理論の構築 川村佐知子、大嶋伸雄 第 9 回：チーム医療の実践 川村佐知子、吉村浩美 第 10-12 回：信念対立解明理論とその応用 川村佐知子、京極真 第 13-15 回：我が国における IPW の今後の課題 川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子

学修方法	講義とディスカッションを組み合わせで行います。
評価方法	討論への参加 30%、レポート 70%
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	なし
参考書	『チーム医療』野中猛著、中央法規 『IPWを学ぶ』埼玉県立大学編集、中央法規 『新しいチーム医療』田村由美編、看護の科学社
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。
オフィスアワー	事前連絡(メール)により、学生の都合に合わせます

科目名	インタープロフェSSIONALワーク演習														
科目責任者	川上 昌子														
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋														
科目の位置付	(1) 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。 (3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。 (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。														
科目概要	保健医療福祉の連携・協働であるチーム医療やチームアプローチの実際にある様々な課題を、IPW の視点から、多職種によるグループで討論し、IPW に必要な能力を修得する。														
到達目標	1. 日常の業務にある IPW の実践を取り上げることができる。 2. 取り上げた IPW 実践を IPW 理論から分析し、問題を抽出できる。														
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th><授業内容・テーマ等></th><th><担当教員名></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1-2 回：オリエンテーション 1) 日常の業務にある IPW の実践を抽出する。</td><td>川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第 3-5 回：2) 取り上げた IPW 実践について具体的な資料を収集する。</td><td>川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第 6-7 回：2) 取り上げた IPW 実践の資料から IPW 理論をもちいて問題を抽出する。</td><td>川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第 8-10 回：2) 取り上げた IPW 実践の問題について IPW 理論を用いて分析し、その解明や解決策を検討する。</td><td>川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第 11-12 回：グループ発表と討論</td><td>川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> <tr> <td>第 13-15 回：グループ発表と討論、まとめ</td><td>川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子</td></tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第 1-2 回：オリエンテーション 1) 日常の業務にある IPW の実践を抽出する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子	第 3-5 回：2) 取り上げた IPW 実践について具体的な資料を収集する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子	第 6-7 回：2) 取り上げた IPW 実践の資料から IPW 理論をもちいて問題を抽出する。	川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子	第 8-10 回：2) 取り上げた IPW 実践の問題について IPW 理論を用いて分析し、その解明や解決策を検討する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子	第 11-12 回：グループ発表と討論	川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子	第 13-15 回：グループ発表と討論、まとめ	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>														
第 1-2 回：オリエンテーション 1) 日常の業務にある IPW の実践を抽出する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子														
第 3-5 回：2) 取り上げた IPW 実践について具体的な資料を収集する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子														
第 6-7 回：2) 取り上げた IPW 実践の資料から IPW 理論をもちいて問題を抽出する。	川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子														
第 8-10 回：2) 取り上げた IPW 実践の問題について IPW 理論を用いて分析し、その解明や解決策を検討する。	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子														
第 11-12 回：グループ発表と討論	川村佐知子、京極真、川上昌子、豊島由樹子														
第 13-15 回：グループ発表と討論、まとめ	川村佐知子、川上昌子、豊島由樹子														

学修方法	自職場などにおける日常の業務にある IPW 実践をまとめておいてください。
評価方法	発表・討論への参加 50%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。演習ですので、欠席は月日・時間は話し合いによって柔軟に設定します。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。
オフィスアワー	事前連絡(メール)により、学生の都合に合わせます

科目名	リーダーシップ特講
科目責任者	小野 善生
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。 (6) 他の専門職者や研究者との連携・協働を通してリーダーシップを発揮し、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる。
科目概要	組織やチームにおいて活動するにあたって、リーダーとメンバーとの人間関係によってそのパフォーマンスは影響を受ける。とりわけ、リーダーによるリーダーシップとメンバーによるフォロワーシップが機能するかどうかは重要である。本講義では、リーダーシップを中心に、フォロワーシップもふまえて、講義および討議を通じて知識の習得さらには実践への応用力を身につけることを目指します。
到達目標	1. リーダーシップの基礎から応用までの知識の習得 2. フォロワーシップに代表されるリーダーシップに関連する知識の習得 3. リーダーシップを実践するにあたっての知見の涵養
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：イントロダクション 第2回：リーダーとは 第3回：事例研究（リーダーに求められるもの） 第4回：リーダーシップの行動特性 第5回：事例研究（リーダーシップの行動特性） 第6回：カリスマ的・変革型リーダーシップ 第7回：事例研究（カリスマ的・変革型リーダーシップ） 第8回：サーバント・リーダーシップ 第9回：事例研究（サーバント・リーダーシップ） 第10回：リーダーシップ開発論 第11回：事例研究（リーダーシップ開発論） 第12回：フォロワーシップ 第13回：事例研究（フォロワーシップ） 第14回：モチベーション・コミットメント・組織市民行動 第15回：まとめ

学修方法	講義および映像資料の視聴を通じての討論
評価方法	授業への積極的な取り組み 80% 課題レポート 20%
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックコメント
指定図書	小野善生（2013）．『最強のリーダーシップ論集中講義』日本実業出版社
参考書	金井壽宏（2005）．『リーダーシップ入門』日経文庫 小野善生（2011）．『まとめ役になれる！リーダーシップ入門講座』中央経済社
事前・事後学修	テキストおよび参考書を通じての予習と復習、毎回の授業につき、それぞれ2時間程度。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学研究方法特講 I
科目責任者	田代 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	保健科学の知識基盤を発展させるため、保健ケアの成果（アウトカム）を検証する研究方法論及び方法（デザイン）について知識を深め、また、成果・ケア介入研究（リサーチ）の妥当性と信頼性を高める方法論について学修する。加えて、院生各自の研究課題に応じて、概念分析・文献検討で研究の枠組み・あるいは研究方法（対象・測定法・変数等）を構築する専門的能力を養う。
到達目標	1. 受講生の研究課題・疑問を、「アウトカム・モデル」を使用して説明ができる。 2. 受講生の関心領域のミニ統合的文献検討（システマティックレビュー）ができる。 3. あるいは、受講生各自の研究のキー概念を抽出し、ミニ概念分析ができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 4 月 20 日（木） 第 1 回：ガイダンス： アドバンス保健科学研究とは？そして保健科学研究上の課題・疑問と保健科学の構築とは？ 第 2 回：研究課題と Evidence-based Practice、その研究プログラムとその研究過程上の課題 第 3 回：EBP/N を支えるアウトカム・モデルとアウトカムリサーチ（成果・介入研究） 5 月 11 日（木） 第 4 回：研究計画の根拠・アプローチ法と文献検討 第 5 回：文献検討・文献統合（Systematic Literature Review/ Meta-Analysis と synthesis） 第 6 回：概念分析アプローチ（Walker & Avant, Rodgers Approach, Hybrid Approach） 6 月 8 日（木） 第 7 回：成果・介入研究のデザイン：1）実験・準実験デザインと文献クリティーク 第 8 回：成果・介入研究のデザイン：2）観察研究デザインと文献クリティーク 第 9 回：研究命題：仮説と変数のサブストラクション 6 月 29 日（木） 第 10 回：測定と尺度開発（方法論的研究） 第 11 回：尺度の評価：尺度の信頼性と妥当性の検証 第 12 回：研究課題・研究吟味の再吟味 とシステマティック・文献レビュー計画 7 月 20 日（木） 第 13 回：研究課題・疑問と文献的根拠（最終プレゼンテーション） 第 14 回：研究課題・疑問と文献的根拠（最終プレゼンテーション） 第 15 回：研究課題・疑問と文献的根拠（最終プレゼンテーション）

学修方法	セミナー形式で、そのセッションの中心課題についての学生のプレゼンテーション・その討論を中心に行う
評価方法	プレゼンテーション 30%、クラス貢献度 20%、 最終発表・レポート：ミニ文献検討・ミニ概念分析 50%
課題に対するフィードバック	クラス内での発表担当院生のプレゼンテーションの情報、ハンドアウトを基に、教員および他の院生との討議で、フィードバックし、理解を深める。
指定図書	『The Practice of Nursing Research』Burns & Grove (2017)、Elsevier 訳本:『バーンズ&グローブ:看護研究入門ー実施・評価・活用ー』エルゼビア・ジャパン (2015)
参考書	Holly Cheryl and others (2017). 『Comprehensive Systematic Review for Advanced Nursing Practice (2 nd Ed)』Springer Publishing Company. Rodgers, B.L. & Knafl, A. (2000). 『Concept Development in Nursing』, W.B. Sanders Co. Brink, P. J. & Wood M. J. (1998). 『Advanced Design in Nursing Research』 Sage Publications. Burns & Grove (2017) 『The Practice of Nursing Research, 6 th Ed. The Practice of Nursing Research』, Sanders Elsevier. Polit & Beck (2017). 『Nursing Research: Generating and Assessing Evidence for Nursing. (10 th Ed). Wolters Kluwer. Holzemer, W.L., 藤崎郁、田代順子、荻原綾子、長谷川久巳、大熊恵子、他 (2000). 焦点：研究の枠組みと研究方法のクティーク、看護研究、Vol. 33, No. 5. pp 3-86.
事前・事後学修	参考書：Holzemer, W.L., 藤崎郁、田代順子、荻原綾子、長谷川久巳、大熊恵子、他 (2000). 焦点：研究の枠組みと研究方法のクティーク、看護研究、Vol. 33, No. 5. pp 3-86. を読み、自らの研究課題のアウトカム・モデルを作成してみてください。 自らの研究の疑問を明確にし、システマティックレビューを基に、研究計画書の案を作成してみてください。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学研究方法特講Ⅱ
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。多様な看護現象を記述するために必要とされるデータの収集方法、質問紙尺度の作成法、その信頼性、妥当性の検証法、さらには、メタ分析、生命表分析についてもその概略を解説する。データの解析方法として、単純集計、統計学的検定、さらに応用的手法として主成分分析、因子分析、重回帰分析、多重ロジスティックモデル；構造方程式モデル（パス解析、共分散構造分析）、比例ハザードモデル、といった多変量データ解析の方法と得られた結果の見方と最新の動向について紹介する。さらに、提供するさまざまな事例（生活習慣尺度、新老人の生活習慣と健康状態の関連）に関するデータ、あるいは自分で収集したデータを用いて、学生自らが SPSS によって分析し、レポートの作成、及び発表会を行う。第 1～4 回は SPSS の使い方を含め、統計の基礎についての講義・演習を行う。
到達目標	1. 保健科学的研究方法についての以下の一連のプロセスを学ぶ。 ①データの収集法 ②収集したデータの特徴を記述する方法(記述統計学) ③標本データから母集団についての推測の方法(推測統計学)と検定方法(統計学的検定) ④保健科学的研究法としての、多変量の関連分析法(多変量解析)の概要と重要性 ⑤統計的分析結果の解釈法 2. 文献の批判的読み方(特に統計的手法に焦点を絞る)について学ぶ。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：ガイダンス：統計学の基礎(記述統計学) 分布、平均、標準偏差、その他の代表値 第 2 回：統計学の基礎(推測統計学) 検定(t、カイ二乗、F、その他) 第 3 回：統計学の基礎 分散分析一元配置、多重比較(反復測定のある場合を含める) 第 4 回：統計学の基礎 2 変量の関係(相関係数、単回帰分析) 第 5 回：多変量解析(1) 重回帰分析、判別分析 第 6 回：多変量解析(2) 多重ロジスティック回帰分析 第 7 回：多変量解析(3) 主成分分析 第 8 回：因子分析と尺度構成 第 9 回：構造方程式モデル(1) パス解析、確認的因子分析 第 10 回：構造方程式モデル(2) 共分散構造分析、多母集団モデル 第 11 回：生存時間データ解析 生命表解析、カプランマイヤー法、比例ハザードモデル 第 12 回：データ収集方法 郵送法、集団記入法、配布回収法、その他 第 13 回：テストの妥当性と信頼性 内容妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性、信頼性係数 第 14～15 回：演習・発表・まとめ

学修方法	講義と演習の併用
評価方法	出席状況・授業態度(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	『やさしい統計入門－視聴率調査から多変量解析まで』田栗・藤越・柳井・ラオ(2007)、講談社 『看護を測る、因子分析による質問紙調査の実際』柳井・井部(2012)、朝倉書店
参考書	『SPSSによる統計データ解析』柳井・緒方編著(2006)、現代数学社 『複雑さに挑む科学－多変量解析入門』柳井・岩坪(1976)、講談社 『原因を探る統計学－共分散構造分析入門』豊田・前田・柳井(1992)、講談社 『Q&Aで知る統計データ解析 第2版』繁桙・柳井・森編著(2008)、サイエンス社 『多変量解析実例ハンドブック』柳井・岡太・繁桙・高木・岩崎編著(2002)、朝倉書店 『エビデンスのための看護研究の読み方：進め方』高木、林(2006)、中山書店 『SPSSとAMOSによる心理・調査データの解析』小塩(2005)、東京図書 『共分散構造分析 (AMOS編)』豊田編(2007)、東京図書 『医学的研究のための多変量解析』木原(雅)・木原(正)訳(2008)、メデイカル・サイエンス・インターナショナル 『統計学と何か：偶然を生かす』ラオ著：藤越・柳井・田栗訳 (2010)、ちくま学芸文庫
事前・事後学修	『やさしい統計入門－視聴率調査から多変量解析まで』を事前に読んでおくこと(3～4時間)。 SPSS の使い方を予習しておくこと(3～4時間)。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学英語特講 (English Special Lecture on Health Sciences)
科目責任者	園城寺 康子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読みながら、医療系論文の概要と特徴を学び、英語論文を書く基礎を習得する。
到達目標	1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。 2. 英語論文の基本的英語表現やフォーマットなどに慣れる。 3. 自分の研究のアブストラクトを書いてみる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回 : Guidanc : 皆さんの研究内容を日本語でまとめてきてください。 第 2 回 : Difference between English and Japanese 第 3 回 : Difference between English and Japanese 第 4 回 : Reveiw of Medical Terms 第 5 回 : Reveiw of Medical Terms 第 6 回 : Lectures on Outlines of Medical Papers 第 7 回 : Reading Papers 第 8 回 : Reading Papers 第 9 回 : Reading Papers 第 10 回 : Reading Papers 第 11 回 : Writing Exercises 第 12 回 : Writing Exercises and APA 第 13 回 : Writing Exercises 第 14 回 : Writing Abstracts 第 15 回 : Summary

学修方法	講義、演習、発表
評価方法	授業参加活動 40%、小テスト、論文読解発表、abstract 作成などの評価 60%
課題に対するフィードバック	小テスト返却、論文読解発表へのコメント、英作文課題と abstract へのコメント
指定図書	<i>English for Medical Students</i> 神山省吾、他 著、南雲堂 『アクセプトされる英語医学論文を書こう！』ネル・ケネディー著、メジカルビュー社
参考書	『うまい英語で医学論文を書くコツ』植村研一著、医学書院 『看護論文を英語で書く』エリザベス M. トーンクイスト著、医学書院
事前・事後学修	<i>English for Medical Students</i> の小テストは本文中心の英作と書き取りです。Chapter 1 を第2回目の講義時にテストするので、準備してきてください。また、英語辞書はいつも持参して下さい。英語論文読解に要する準備時間は受講者数や個人差があるので、かなり事前に決め準備できるようになっています。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。